

事業計画書

事業名	松戸が世界とつながる学びプロジェクト事業
団体名	特定非営利活動法人なかよし学園プロジェクト

事業概要
松戸市内小中学校・フリースクールで授業の一環として学校とともに国際理解講演と探究学習を行い、生徒が制作した教材を世界へ届け、地域発の平和教育と多文化共生を広げるプロジェクトです。現地とオンラインで繋ぎ交流を行います。

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	松戸市は多文化共生と国際理解教育が重要課題となっており、外国につながる子どもや国際社会への関心を持つ若者が増える一方、学校現場では世界の現状や平和構築を学ぶ機会が限られています。地域に根差した国際教育の不足は、未来を担う子どもたちが多様性を理解し協働できる力を育む妨げとなり、地域社会の持続可能性にも影響します。こうした現状を踏まえ、松戸の子どもが自ら学び世界とつながる体験を創出し、市民全体が多文化共生と国際協力を自分事として捉える教育モデルを確立することが必要です。									
事業の目的	松戸市内の小中学生が国際理解と平和構築を学び、自ら教材を創作して世界へ届けることで、地域から多文化共生と国際協力を推進し、未来を担う市民として主体的に行動する力を育むことを目的とします。									
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>松戸市内の小中学校で文部科学省が定めている学習指導要領「総合的な学習の時間（探究的な学習）」の授業として国際理解・平和教育に取り組むため、教員とともに国際理解・平和教育講演を実施し、学んだ内容をもとに生徒が絵本・かるた・映像などの教材を制作します。同内容をフリースクールにも展開します。当団体は、日本の子どもたちが国際理解をし、自分たちに今できることを考え形にするワークショップを行い、作成をサポートします。完成した教材は南スーダン等へ当団体が届け、現地の授業で活用。市内小中学校・フリースクールでは、授業として適宜現地とオンライン交流を行うなど、子どもたちは成果と反響を共有し、異文化理解と平和への主体的行動力を育みます。最後にまとめ学習として、子供たちが授業の成果物の制作を行い、成果発表会を生徒・児童・学校関係者向けに行います。</p> <p>2 スケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月</td> <td>広報活動(HP,チラシ、情報紙、資料作成、配布等) 市内小中学校・フリースクールと連携調整、事業説明・参加校決定、教材づくりの方向性決定</td> <td>実施体制：構成員 場所：事務所 実施体制：構成員 対象：市内小中学校・フリースクール関係者 場所：市内小中学校職員室、フリースクール</td> </tr> <tr> <td>6～7月</td> <td>国際理解・平和教育講演会を各校で実施、生徒による探究テーマ選定と教材草案作成</td> <td>実施体制：構成員、各校教員、地域ボランティア（フリースクールの場合。以下同じ）対象：市内小中学校・フリースクール児童・生徒、保護者</td> </tr> </tbody> </table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	5月	広報活動(HP,チラシ、情報紙、資料作成、配布等) 市内小中学校・フリースクールと連携調整、事業説明・参加校決定、教材づくりの方向性決定	実施体制：構成員 場所：事務所 実施体制：構成員 対象：市内小中学校・フリースクール関係者 場所：市内小中学校職員室、フリースクール	6～7月	国際理解・平和教育講演会を各校で実施、生徒による探究テーマ選定と教材草案作成	実施体制：構成員、各校教員、地域ボランティア（フリースクールの場合。以下同じ）対象：市内小中学校・フリースクール児童・生徒、保護者
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など								
5月	広報活動(HP,チラシ、情報紙、資料作成、配布等) 市内小中学校・フリースクールと連携調整、事業説明・参加校決定、教材づくりの方向性決定	実施体制：構成員 場所：事務所 実施体制：構成員 対象：市内小中学校・フリースクール関係者 場所：市内小中学校職員室、フリースクール								
6～7月	国際理解・平和教育講演会を各校で実施、生徒による探究テーマ選定と教材草案作成	実施体制：構成員、各校教員、地域ボランティア（フリースクールの場合。以下同じ）対象：市内小中学校・フリースクール児童・生徒、保護者								

			場所：市内小中学校教室・体育館、まつど市民活動サポートセンター（フリースクールの場合。以下同じ）
	8～9月	生徒が教材（絵本・かいた・映像など）を完成、英訳や動画編集、海外発送準備	実施体制：構成員、語学サポーター、地域ボランティア 対象：制作チームの児童・生徒、保護者 場所：市内小中学校教室、まつど市民活動サポートセンター
	10～12月	教材を南スーダン・ルワンダ等へ発送、現地授業で活用しオンライン交流を実施	実施体制：構成員、現地パートナーNGO、通訳・技術サポート 対象：参加児童・生徒、受入国の児童・生徒 場所：市内小中学校教室（オンライン）、まつど市民活動サポートセンター、海外現地校
	1～2月	現地からの成果報告を受けまとめ学習、成果物（ポスター・動画）制作、地域報告会準備	実施体制：構成員、各校教員、地域ボランティア 対象：参加児童・生徒 場所：市内小中学校教室、まつど市民活動サポートセンター
	3月	成果発表会を開催し事業総括、次年度継続計画を検討	実施体制：構成員、各校教員、参加児童・生徒 対象：児童・生徒、保護者、地域ボランティア、行政・企業関係者 場所：市内小中学校体育館、まつど市民活動サポートセンター
既存の事業からステップアップする部分			
事業従事者数	事業従事者数：5名		
事業の目標	①松戸市内の小中学校・フリースクール 3～5校で国際理解・平和教育講演会を実施し参加児童・生徒 延べ 500人以上が探究学習に参加する。②生徒が制作した教材を 50点以上完成させ南スーダン等 2か国以上の教育現場で活用する。③現地授業とオンライン交流を通じて延べ 300人以上の現地児童と双方向交流を実施する。④成果報告会を松戸市内で開催し市民・保護者延べ 200人以上の参加を目指す。⑤参加児童・生徒の 90%以上が「異文化理解・平和への意識が高まった」と回答するアンケート結果を得る。		
今後の展望	市内小中学校・フリースクールで毎年継続的に講演・教材制作を行う常設型の国際理解教育モデルを構築。松戸発の教材を南スーダン等世界各国で活用しオンラインを通じた恒常的な交流プログラムを確立。企業・市民協働による教材制作費・海外送料を自走的に賄う地域内資金循環モデルを整備。全国での実績と松戸版の成果をもとに全国自治体への横展開や文部科学省後援事業としての普及を推進。松戸から持続的に世界とつながる学びを生み出し、地域発の多文化共生・平和教育を国内外に広げることを目指します。		

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

	科 目	金 額	積算内訳
団 体	団体拠出金	¥ 35,000	事業費の一部を団体会計より拠出
	寄付金	¥ 10,000	支援者からの寄付
	事業収入	¥ 30,000	国際理解・平和教育 講師料
	自己資金の合計額 (A)	¥ 75,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 175,000	

【支出】

	科 目	予算額	積算内訳
助 成 金 の 交 付 対 象 経 費	報償費	¥ 40,000	現地コーディネーター (謝礼10,000円×4人)
	消耗品費	¥ 36,000	ワークシート1セット50円×200部。教材用画用紙200枚(6000円)、文房具(2,000円) プリンターインク1セット7,500円×2セット
	印刷製本費	¥ 29,000	チラシ・パンフレット印刷5円×2,000枚、50円×280部
	通信運搬費	¥ 35,000	教材送付運送料(送料10,000円) 教材の海外輸送における手荷物運搬費の差額(25,000円)
対象経費の合計 (D)		¥ 140,000	
そ の 他 経 費	交通費	¥ 35,000	教材の海外輸送に伴う構成員交通費
その他経費の合計 (E)		¥ 35,000	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 175,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。